

「まちづくりファンド」は、高知市に住むあなたのまちづくり活動を応援します

公益信託高知市まちづくりファンドニュース



まちファン

38号

2022年3月1日

2021年度公益信託「まちづくりファンド」中間発表会



2022年1月23日(日)、2021年度事業の進捗報告を行う為の「中間発表会」が開催されました。会場は高知市役所2階の「せんだんの木」で初めての開催となりました。新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、開催時間を半分に短縮したことで、意見交換の時間を確保できず、残念がる声も多く聞かれましたが、今後活動を実施するための貴重な情報共有の場となりました。

活動への熱い思いは変わらない!!

中間発表会プレゼンテーション

A、B、C、D各コース7分の持ち時間で活動発表を行いました。

プレゼンします!



参加者のコメント

●場所の設定を今回「せんだんの木」にされ雰囲気が和み良かった。(コロナの影響で短縮され残念)

●みなさん、各々の想いを持って地道な活動を続けられていると感じました。そんなみなさんの熱い想いを感じ、集まることで力を合わせて「明るいまちづくり」をしていくことの大切さを思いました。



▲高知市役所2階の「せんだんの木」、平日はレストランです

●活動のジャンルが似ている団体さんとは、今後コラボできたり何か次に繋がる動きをしたいと思います。

●縮小開催であったが、他団体の活動の進捗状況が聞けて良かった。

●コロナ禍であっても、やっている人の気力は衰えていないと感じた。それを取り巻く環境がコロナ禍にあるだけのように感じた。

●行政のすき間をうめる活動。活動の拠点への財政支援になるファンド。これからも継続を!

●皆さんそれぞれの団体の活動の意気込み、熱量を感じ、感心しました。

●これからも小さいながらもコツコツと活動を続けていき、少しでも高知で幸せに暮らしていける人を増やしていきたいです。

●発信方法などこれからの活動の参考になった。

●目に見えて「地域」「まちづくり」の典型のような取り組みもあるが、そうではなく小さいけど大切な活動もあり、そうした事業を助成するこのまちづくりファンドは大切だなとつくづく感じました。

▲リラックスして各団体のプレゼンテーション



▲ガラス張り開放的な雰囲気





A 学生まちづくりコース 上限
5万円

A1 子どもの居場所としての
駄菓子屋づくり

だがしやふーか

開店した昨年5月以降の来店者はのべ1,000人を超えました。お菓子を買って帰るだけでなくそのまま遊んだり勉強したりする小学生が見られ、『子どもの居場所』としての機能を実感しています。また、遊びを通して信頼関係を築く中で悩みの発見につながることもありました。これからも、地域の方たちとの交流を増やしながらかつ活動を続けていきたいです。

●Q&A●

Q: 活動を行うなかでの改善点や今後、積極的に行っていきたい事はありますか？

A: 地域の中で子ども達が育っていく環境を作りたいと考えています。以前、駄菓子屋にやってくる子ども達の自転車のマナーについて近所の方から注意を受けました。気にかけてもらってありがたいと思う反面、見かけた方から子どもに声をかけられる関係性がある状態が、「まちづくり」として理想の形だと感じました。今後はそのためにできる働きかけもしていきたいと思えます。



B3 「地域×ワカモノ*
にぎわい夜学会in高知市」

ヤングジェネレーション高知

「にぎわい夜学会」を開催し、青年世代と先輩世代でこれから若者が地域で担える行事等の意見交換(老若男女交流会)を行いました。夜学会への参加をきっかけに、地域イベントに参加する若者が増え、若者グループ立ち上げの素地が出来つつあると感じました。次世代を担う若者の地域活動参画のきっかけとなるよう、今後も地域と若者をつなぐ役割を担っていきたくて考えています。

●Q&A●

Q: 季節に関係なく参加できる地域イベントの開催は考えていますか？

A: 昨年のクリスマスイブに開催したのは「お出かけ出張サンタ」というその季節ならではのイベントでしたが、今後は、季節に依らず皆で集まって、考えて、話し合える場所を定期的につくってきたいです。



B まちづくりはじめの一步コース 上限
5万円

B2 仁ノ八幡宮の祭りを盛り上げ
町を元気にしよう

仁ノ八幡宮保存会

10月に開催した秋祭りは、今年で3回目を迎えます。当日は、募集した短歌・イラストの入賞発表を万葉時代の衣装に扮したスタッフが行ったり、古来伝承「太刀踊り」の奉納や「万葉太鼓」の演奏等を行いました。境内には80人を超える人達が集まっており、祭りの賑わいぶりから活動の効果が出ていると実感しています。また、地元の春野高校生10数名が準備から参加し、若い力で祭りを大いに盛り立ててくれました。

●Q&A●

Q: 活動するうえで、一番困ったことは？
また、それをどうやって打開しましたか？

A: 秋祭りでは、短歌や絵馬イラスト作品を募集し、境内に掲示・表彰する企画がありますが、その募集の方法には毎回悩みます。そんな時、この祭りをきっかけにつながりできた春野高校生が、校内の学生から短歌を集めてくれるという出来事がありました。来年度以降の協力も約束してくれています。



C まちづくり一歩前へコース 上限
30万円

C1 潮江地区津波避難路・防災
マップの作成

潮江防災士会

潮江地区防災マップの作成にあたり、避難路の再調査を実施し、冊子のイメージを検討しました。可能な限り、小学生のハザードマップや中学生の防災プロジェクトの内容などを掲載したものを予定しています。今回のマップ作成過程で他団体や地域の方に周知・啓発を行ったところ、会への関心を持つ方が多くなり参加者も増加しました。完成への期待度が高まっていると感じています。

●Q&A●

Q: 潮江地区以外の方がマップを手に入れる方法はありますか？また、他地域との連携はありますか？

A: 防災マップは、潮江地区住民に配布しますが、残った分は、高知市の地域防災推進課や防災政策課にも置かせてもらう予定です。他団体との連携については、長浜の防災士会とつながりが出来て、定例会にも参加しています。そのおかげで新しい考え方も生まれるようになりました。



C2 無料電話相談 “聴いてもらって安心ホットライン”

特定非営利活動法人キャリア・ライフ高知

最近も全国ニュースで、殺傷事件や、放火など痛ましい事件が続いています。「人が孤立化し、自分を追い込んでしまう状況に陥った時、気軽に相談できる窓口があれば、最悪の結果は防ぐことができるかもしれない」そんな思いで取り組んでいます。話をお聴きすることで相談者の心の中が整理され、前向きな答えに変化していく瞬間が一番うれしく思います。

●Q&A●

Q:これまでの相談の中で、地域や行政へ繋げることで良い結果に結びついた事例はありますか？



A:これまでの活動で約100件の相談があります。夫婦が死別後一人になった時のメンタル相談や、障害について、他にも就労関係など多岐に渡ります。話を聴くだけでなく、これまでの経験を活かし「地域の居場所作り」「福祉センター相談窓口」「ハローワーク」等、相談者にとって良いと思われる活動や窓口を紹介することで繋がりを作っています。

C4 アート×イートで！ 未来子育て環境を整えよう

FFC高知(フーズフォーチルドレン高知)

コロナ感染拡大の影響で、イチゴの寄植え講座をオンライン開催(Zoom)に変更。イチゴの苗は時間をずらして取りに来てもらいました。その時の状況に応じて録画配信やオンライン講座に変更。保育園に向けての紙芝居や食育のワークショップ等は、コロナの状況を考慮し、YouTube配信などに切り替えました。今後も三密を避けた状況を考慮した方法で講演会を行ってまいります。

●Q&A●

Q:事業名に「アート×イート」とありますが、活動の中で「アート」になっている部分を教えてください。

A:例えばイチゴの収穫体験では、参加の子どもに、イチゴのなっている様子を予想して絵を描いてもらいました。栽培経験がないとイチゴが木になっているユニークな絵を描いていた子どもの栽培後の絵の変化が楽しみです。自分のイメージを共有する場にもなっています。ワークショップではこうした取り組みを合わせて行っており、その他のアート活動も含めInstagramで発信しています。



🏠 D まちづくり拠点整備コース 上限 100万円

C3 高知で自作甲冑教室をやろう ～市民が作る市民参加型まちづくり～

高知自作甲冑教室実行委員会

8月～9月は新型コロナウイルス感染拡大時期と重なったことで、予定していた会場が閉鎖になるなど影響が大きく、参加者集めにも苦労しました。結果的に多くの方に参加頂き、事業を実施することが出来ましたが、連絡調整が煩雑になり、こちらの意図が十分に参加者に伝わらないなど課題もあった為、改善し、今後の事業へと活かしたいと思います。

●Q&A●

Q:42名というたくさんの方が武者行列に参加されたようですが、「告知がうまくいった」など何か理由はありますか？

A:長宗我部まつりに参加された方がそのまま参加されるケースもありますが、自作甲冑での繋がりで、香川県で甲冑を作成された方の参加も多かったです。それ以外にもSNS発信を通じて活動を知った一般の方が、数名本物の甲冑を持参で参加されました。



D1 緊急避難場所(シェルター)整備事業

ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会 (こうちネットホップ)

令和3年11月にシェルターの引渡が完了しました。開所は令和4年1月16日。1泊1,000円の利用率を設定しています。しかし、年間利用率＝利用率収入が不透明であり、維持費の確保が課題です。

また、路上生活者には、生活保護の活用や居宅生活復帰を望んでいない方も多く、これからもこの方たちに寄り添い、社会保障制度の利活用等へ繋げていく取り組みが大切と思います。




●Q&A●

Q:拠点整備事業で、11月にリフォームが終了しましたが、やってみて当初予定と異なる点はありましたか？

A:ユニットバスを新規設置の予定でしたが、出入口の関係で入れ替えが困難だったことから再利用することにしました。また、入居者の生活環境を考えエアコンは必要設備と判断し、設置しました。その費用は、ユニットバスの差額と、一般の方から頂いた寄付金を利用しました。



●中間発表会を終えて

<p>●運営委員長 増田 和剛 (高知中・高等学校)</p> <p>高知市のまちづくりの特徴は、活動団体の発表を通じて「目に見えるまちづくり」と「目に見えないまちづくり」の二種類のタイプのまちづくりが地域に共存しあい、日々の日常生活をつくりだしていることに気づかされます。</p> 	<p>●副運営委員長 堀 洋子 (社団法人高知県建築士会)</p> <p>まちづくり拠点整備コースの「緊急避難場所(シェルター)整備事業」は行政では手の届きにくい隙間を埋める活動です。長年ホームレスの方等の支援をされている『ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会(こうちネットホップ)』さんの活動ですが、拠点整備は終了し既に入居されています。シェルターを利用した、多様な方の支援が動き始めました。</p> 
<p>●運営委員 宮地 貴嗣 (ラ・ヴィータ宮地電機株式会社)</p> <p>中間発表をいただき、ありがとうございます。各団体とも、コロナで事業開催が難しい中、当初の目的を達すべく、努力、工夫をされている様子が伝わってきました。残り半年間で、成果が上がることを期待しています。</p> 	<p>●運営委員 高橋 鉄昭 (高知市社会福祉協議会 土佐山健康福祉センター)</p> <p>それぞれの活動を行っていくなかで、試行錯誤を繰り返しながらも新たな繋がりを得るなど、工夫しながら事業展開されていて、楽しく拝聴することが出来ました。事業への参加や見学は出来ませんでした。あと半年頑張ってください。</p> 
<p>●運営委員 田中 希和 (公益財団法人 高知市文化振興事業団)</p> <p>コロナ禍で思い通りに事業を進められないもどかしさを感じましたが、それぞれに試行錯誤されていて私も参考になりました。コロナ禍だからこそできることを見つけながら少しでも楽しんで活動してほしいです。</p> 	<p>●運営委員 吉本 怜 (高知工科大学 経済・マネジメント学群)</p> <p>私が今回の中間発表を終えて感じることは、助成団体の活力です。コロナ禍でもできる事を模索しながら、自分の住む地域や人のために活動する団体の活力をこれからも大切に、残りの活動期間を頑張りたいと思います。</p> 

増田ノオト 中間発表会を終えて一委員長のつぶやき

継続してきた様々な活動がこの二年間で様変わりしてしまったが、これを機に活動を総括し、実施方法の検討へ結び付けていく事が出来れば、活動の充実感へと繋がる。なにより皆さんが楽しく活動へかかわり、やってる感が得られなければ続かない。その為には活動に参加してもらう側よりも、企画運営をする側の力(体力)が必要だと感じる。



本日の発表にも度々登場してきた言葉のなかに、やってみて初めて分かったこと(改善すべきことや課題、良かったこと)へ辿り着けば、それが今後継続の為の力へと繋がっていく。これからはツナガルきっかけ作りや拠点づくりも進めながら、活動のための仲間を増やしつつ、今後コロナ禍であっても方向性を見失わない活動の方向性を可視化(見える化)しながら活動を継続させていただきたい。

寄付のお願い

まちづくりファンドは皆様のまちづくり活動を支援する仕組みです。

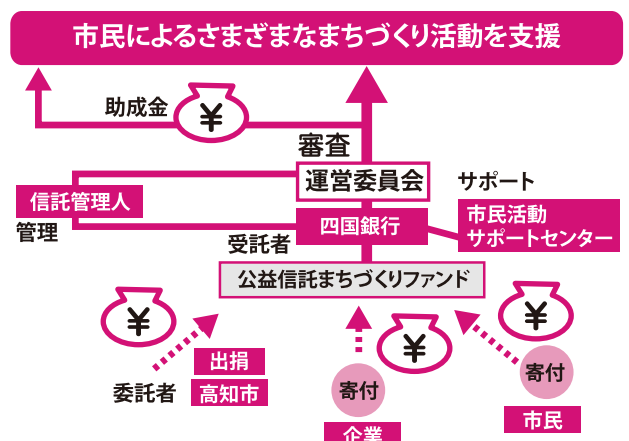


まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された基金を毎年取り崩しながら助成しています。少しでも長く市民のまちづくり活動に活かされるよう、多くの皆様のご寄付をお願いいたします。

寄付に関するお問い合わせ・お申し込みは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行 コンサルティング部 信託担当
TEL088-871-2111(代表)
〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

公益信託高知市まちづくりファンドのしくみ



お問い合わせ

高知市市民活動サポートセンター
(月～金 10:00～21:00、土 10:00～18:00)
TEL 088-820-1540
〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43
高知市たかじょう庁舎2階
E-mail info@kochi-machifun.org
https://www.kochi-saposen.net

市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。現在「認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が運営を担っており、貸会議室の利用(要登録)、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報提供、活動に必要な機器の貸出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。